

令和5年度

# 奈良市立看護専門学校

## 一般入学試験（専願）問題

### 国語

試験時間 50 分（問題 1～17）

#### 注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
2. 机には、受験票、筆記用具以外のものを出してはいけません。
3. 係員の指示に従って、**下欄及び解答用紙に受験番号と氏名を正しく記入**し、解答用紙の受験番号欄をマークしてください。
4. 解答方法：選択肢(1～5)から**正解を一つ選び**、解答用紙の解答欄の該当番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
5. マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように濃く、はっきりと塗りつぶしてください。「悪い例」では採点されない場合があります。
6. 試験中に問題の印刷不鮮明等に気付いた場合は、手を挙げて係員に知らせてください。なお、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
7. 問題の余白はメモ等に使用して構いません。
8. この問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

受験番号

--	--	--

氏名

--

## 第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(平家打倒の陰謀を図ったとされ島流しになった俊寛しゆんかんを、かつての侍童ありおうであった有王が訪ねる。)

俊寛様は楽しそうに、晩の御飯をおしまいになると、今度は涼しい竹縁ちくえんの近くへ、円座わりうだを御移しになりながら、

「では空腹が直ったら、都の便りでも聞かせてもらおう。」とわたしの話を御促しになりました。

わたしは思わず眼を伏せました。兼ねて覚悟はしていたものの、いざ申し上げるとなると見ると、(ア) 今更のように心が怯れたのです。しかし御主人は無頓着ぼしやうに、芭蕉の葉の扇を御手にしたまま、もう一度御催促なさいました。

「どうじゃ、女房は相変わらず小言ばかり言っているか？」

わたしはやむを得ずうつむいたなり、御留守しゆつたいの間に来た、いろいろの大変を御話しました。御主人おとらが御捕ごきんじゆわれなすった後、御近習しんじゆ注1は皆逃げ去った事、京極きやうごくの御屋形おやかたや鹿ヶ谷しし たにの御山荘も、平家の侍に奪われた事、北の方は去年の冬、御隠れもがさになってしまった事、若君も重い疱瘡のために、その跡を御追おいなすった事、今ではあなたの御家族の中でも、たった一人姫君だけが、奈良の伯母御前おば ごせ おすまいの御住居に、人目を忍んでいらっしゃる事、——そう言う御話みほとけをしている内に、わたしの眼にはいつのまにか、燈台ほかげの火影が曇すだれって来ました。軒先すだれの簾ずし、廚子みほとけの上の御仏、——それももうどうしたかわかりません。わたしはどうとう御話半ばに、その場へ泣き沈もんでしまいました。御主人は始終もくねん黙然と、御耳を傾けていらしたようです。が、姫君の事を御聞きになると、突然ころもさも御心配ころもそうに、法衣の膝を御寄せになりました。

「姫はどうじゃ？ 伯母御前にはようなついているか？」

「はい。御睦おむつましいように存おじました。」

わたしは(イ) 俊寛様へ、姫君の御消息をさし上げました。それはこの島へ渡るものには、門司や赤間が関を船出する時、やかましい詮議もとどりがあるそうですから、髻おふみ注2に隠して来た御文なのです。御主人は早速燈台の光に、御消息をおひろげなさりながら、ところどころ小声に御読みになりました。

「……世の中かきくらしして晴るる心地なく侍り。……さても三人一つ島に流されけるに、……などや御身一人残り止まり給うらんと、……都には草のゆかりも枯れはてて、……当時は奈良の伯母御前おんもとの御許に侍り。……おろそかなるべき事にはあらねど、かすかなる住居おはか推し量り給え。…さてもこの三とせまで、いかに御心強く、有とも無とも承おんのぼわらざるらん。……とくとく御上り候え。恋しとも恋し。ゆかしともゆかし。……あなかしこ、あなかしこ。……」

俊寛様は御文を御置きになると、(ウ) じっと腕組みをなすったまま、大きい息をおつきになりました。

「姫はもう十二になった筈はずじゃな。——おれも都には未練はないが、姫にだけは一目会いたい。」

わたしは御心中を思いやりながら、ただ涙ぬぐばかり拭ぬぐっていました。

「(エ) しかし会えぬものならば、——泣くな。有王。いや、泣きたければ泣いてもよい。しかしこの娑婆しゃば世界には、一々泣いては泣き尽せぬほど、悲しい事が沢山あるぞ。」

御主人はうしろの黒木の柱に、ゆっくり背中を御寄せになってから、寂しくげんそうに御微笑なさいました。

「女房も死ぬ。若も死ぬ。姫には一生会えぬかも知れぬ。屋形や山荘もおれの物ではない。おれは独り離れ島に老の来るのを待っている。——これがおれの今のさまじゃ。が、この苦くげん難を受け

ているのは、何もおれ一人に限った事ではない。おれ一人衆苦<sup>注3</sup>の大海に、没在していると考え  
 るのは、仏弟子にも似合わぬ増長慢<sup>注4</sup>じゃ。『(オ) 増長驕慢、尚非世俗白衣所宜<sup>注4</sup>』艱難  
 の多いのに誇る心も、やはり邪業には違いあるまい。その心さえ除いてしまえば、この粟散辺土<sup>注5</sup>  
<sup>注5</sup>の中にも、おれほどの苦を受けているものは、恒河沙<sup>注6</sup>の数より多いかも知れぬ。いや、人界  
 に生れ出たものは、たといこの島に流されずとも、皆おれと同じように、孤独の歎を洩らしてい  
 るのじゃ。村上の御門第七の王子、二品中務親王、六代の後胤、仁和寺の法印寛雅が子、京極の  
 源大納言雅俊卿の孫に生れたのは、こう言う俊寛一人じゃが、(カ) 天が下には千の俊寛、万の  
 俊寛、十万の俊寛、百億の俊寛が流されているぞ。——」

俊寛様はこうおっしゃると、たちまちまた御眼のどこかに、(キ) 御気色が閃きました。  
 (芥川龍之介「俊寛」による)

(注) 1 近習：主君のそばに仕える者 2 髻：髪の毛をまとめて頭の上で束ねた所 3 衆苦：身心の諸々の苦 4 尚非世俗白衣所  
 宜：普通でも悪いとされている（ましてや仏教徒に許されることではない） 5 粟散辺土：へんぴなどころにある小さな国 6 恒  
 河沙：恒河にある砂

問題1 下線部(ア)「今更のように心が怯れた」とあるが、ここにはわたし(有王)のどのような  
 心情が表わされているか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 何を話せば良いのかわからずに困惑した。
- 2 言いにくい話をなぜ自分がしなければならないのかと不満に思った。
- 3 都に戻れない俊寛がなぜ様子を聞こうとするのか疑問に思った。
- 4 不幸な話ばかりで、俊寛の落胆を見越して話す気力が弱まった。
- 5 都での不始末を俊寛から責められることを恐れた。

問題2 空所(イ)に当てはまる最も適当な語句を一つ選択せよ。

- 1 泣く泣く
- 2 すかさず
- 3 熱心に
- 4 しずしずと
- 5 おごそかに

問題3 下線部(ウ)「じっと腕組みをなすったまま、大きい息をおつきになりました」とあるが、  
 このときの俊寛の気持ちとして、最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 姫君の状況を思い、その不幸からくる悲しみの涙を必死でこらえようとした。
- 2 有王の話や姫君の手紙によって自らの苦難を実感しながらも、仕方がないと自分を納得させ  
 た。
- 3 姫君からの手紙を読んで、彼女に一目会いたいもののもう都へは戻れない自身の状況を鑑み、  
 落ち込みを隠そうとした。
- 4 有王の話や姫君の手紙による予想外の状況に戸惑いながらも、かつての侍童の前に威厳を見  
 せようと心を落ち着けようとした。
- 5 有王の話が信じがたかったものの、姫君の手紙により真実であると悟り、動揺を隠そうとした。

問題4 下線部(エ)「しかし会えぬものならば、――」に続くと考えられる言葉として最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 せめて声だけでも聞けぬものか。
- 2 何とかならないものか。
- 3 これからも、私に手紙だけでも届けてもらえぬか。
- 4 私から手紙を書くでしょう。
- 5 あきらめざるを得まい。

問題5 下線部(オ)「増長ぞうじょうきょうまん驕慢」とは何か。最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 物事に対する強い執着心。
- 2 いつまでも過去にとらわれ続けること。
- 3 他人に対する憎しみをいつまでも持ち続けること。
- 4 おごりたかぶること。
- 5 家族、友人、財産などを増やしたいという欲望を持つこと。

問題6 下線部(カ)「天が下には千の俊寛、万の俊寛、十万の俊寛、百億の俊寛が流されているぞ」とはどういうことか。最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 世の中には、生きていくために俊寛のような苦しい境遇に耐えている者がいくらでもいる。
- 2 今までに島流しにあった者は、星の数ほど沢山いる。
- 3 俊寛の血縁をたどれば、どれほど多くの身内の者が島流しにあっているか見当もつかない。
- 4 自分は島流しになった身の上であるとはいえ、自分に味方してくれる者は沢山いるはずだ。
- 5 恵まれない境遇の者同士が手を結び助け合えれば、孤独に苦しむようなことはなくなるはずだ。

問題7 空所(キ)に当てはまる最も適切な語句を一つ選択せよ。

- 1 戸惑いの
- 2 陽気な
- 3 寂しげな
- 4 苦しげな
- 5 陰気な

問題8 本文の内容と合致する記述として最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 俊寛は有王を安心させるために、すべてをあきらめている振りをしているに過ぎない。
- 2 有王は俊寛の思いもよらない冷静さに接して、俊寛に見放されたように感じた。
- 3 有王は今でも俊寛のそばに仕えたいと思っている。
- 4 俊寛は自分の妻が相変わらず小言ばかり言っている様子に安心した。
- 5 俊寛を支えているのは信仰心であると言える。

第2問 次の各問いに答えよ。

問題9 下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 惰弱（じょうじゃく）な精神を鍛える。
- 2 式典が厳か（ひそか）に執り行われる。
- 3 懐郷（かいごう）の思いに駆られる。
- 4 金額の多寡（たぼ）は問わない。
- 5 非難の矢面（やおもて）に立たされる。
- (2) 1 他人を軽侮（けいばい）の目で見るのは良くない。
- 2 格子（かっこ）柄のシャツを着る。
- 3 村で質朴（そぼく）な老人に出会った。
- 4 神に誓願（せいがん）を立てる。
- 5 甘美な旋律（せりつ）に聞きほれる。
- (3) 1 ブーツに靴墨（かぼく）を塗る。
- 2 地震により道路が陥没（かんぼつ）した。
- 3 墓に花を手向ける（てむける）。
- 4 会議に諮って（そって）決める。
- 5 船が奔流（はんりゅう）に流される。

問題10 下線部の漢字が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 その事件は現在も係争中だ。
- 2 親が子を付養する。
- 3 会社の同寮と親しく付き合う。
- 4 彼は最近注意力が散漫だ。
- 5 あの人は周りから粗外されている感じがする。
- (2) 1 この国は転変地異がよく起こる。
- 2 未解決の問題について折衝を重ねる。
- 3 彼女はあまりにも不合想だ。
- 4 新発売の商品に思わず触指が動く。
- 5 物語の概要を伝える。
- (3) 1 このサービスの般用性は非常に高い。
- 2 鉄道を付設する。
- 3 ひとり孤空を見つめる。
- 4 今日の対戦は泥仕合の様相を呈した。
- 5 歯に絹着せぬ物言いをする。
- (4) 1 新しい条例が発功する。
- 2 大雨で田畑が冠水した。
- 3 彼は驚意的な身体能力をもつ。
- 4 関節痛に悩まされている。
- 5 彼女は明郎快活な人だ。

問題 11 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選択せよ。

(1) 飛行機を操ジュウする。

- |                          |                             |
|--------------------------|-----------------------------|
| 1 部下が上司に服 <u>ジュウ</u> する。 | 2 アメリカ大陸を <u>ジュウ</u> 断する。   |
| 3 携帯電話を <u>ジュウ</u> 電する。  | 4 果 <u>ジュウ</u> の入ったジュースを飲む。 |
| 5 苦 <u>ジュウ</u> の決断を迫られる。 |                             |

(2) 定められた法レイを遵守する。

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 バレリーナが華 <u>レイ</u> に舞う。   | 2 協力者に謝 <u>レイ</u> を述べる。  |
| 3 社長の <u>レイ</u> 嬢にご挨拶する。   | 4 コーチから激 <u>レイ</u> を受ける。 |
| 5 契約満期で返 <u>レイ</u> 金を受け取る。 |                          |

(3) 別紙の表をサン照する。

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 ヒーローが <u>サン</u> 上する。      | 2 川のほとりを <u>サン</u> 歩する。 |
| 3 凄 <u>サン</u> な光景を目の当たりにする。 | 4 必要な費用を <u>サン</u> 段する。 |
| 5 プロジェクトの趣旨に <u>サン</u> 同する。 |                         |

問題 12 次のうち「阻止」の同意語として正しいものを一つ選択せよ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| 1 逆行 | 2 屈折 | 3 後進 | 4 過程 | 5 妨害 |
|------|------|------|------|------|

問題 13 次のうち「緩慢」の反意語として正しいものを一つ選択せよ。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| 1 異様 | 2 敏速 | 3 故意 | 4 地道 | 5 鉄壁 |
|------|------|------|------|------|

問題 14 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) パフォーマンス

- 互いに力を合わせて目的に達しようとする組織や人の集団。
- (特に企業体による) 芸術・文化の援護活動。
- 企業などが倫理性の欠如から利益追求に走ること。
- 人目をひこうとする行為。
- よりよい社会の実現のため変革の主体となる力をつけること。

(2) 目くじらを立てる

- 常に注意を怠らず、見守っていなければならない。
- 監視が厳重である。
- 人の欠点を探しては、ことさらにそれを非難する。
- 先のことがよく予測できる。
- あまりにひどいので、黙って見過ごすことができない。

(3) 魚心あれば水心

- 反響を呼ぶ問題を投げかける。
- ふだんの苦労や緊張から解放されて、のびのびと気晴らしをし、楽しむこと。
- きわめて親密な交わりのたとえ。
- 今までのいざこざや気まずさなどを、すべてなかったことにして和解するたとえ。
- 相手が好意を示せば、こちらも好意をもって対応しようということ。

(4) 呉越同舟

- 1 仲の悪い者同士が同じ場所や境遇にいること。
- 2 人生の浮き沈みがきわめて激しく、劇的であるさま。
- 3 世の中の表も裏も知りつくして、悪賢いこと。
- 4 結果のよしあしにかかわらず行動や運命を共にすること。
- 5 だれにも遠慮せずに、何かをなしてよいこと。

(5) 主客転倒

- 1 滅びかかったものをもとに戻すこと。
- 2 物事の重要度を取り違えること。
- 3 衰えて落ちぶれること。
- 4 物事の方針や方向がくるくると変わり、なかなか定まらないこと。
- 5 失敗や挫折から立ち直ることができない状態のこと。

問題 15 次の意味を表す言葉として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 広い可能性を秘めた開拓の対象となる領域。

- 1 エキシビジョン
- 2 レポートリー
- 3 フィールド
- 4 ニッチ
- 5 フロンティア

(2) 秘密にしようと思っていたことを、しゃべっているうちにうっかり話してしまうこと。

- 1 語るに落ちる。
- 2 闇に葬る。
- 3 煙幕を張る。
- 4 棚に上げる。
- 5 金棒を引く。

(3) 古いしきたりや状況が続き、進歩や発展がまったく見られないさま。

- 1 一進一退
- 2 自然淘汰<sup>とうた</sup>
- 3 無二無三
- 4 旧態依然
- 5 寸進尺退

問題 16 次のうち下線部の言葉の用法が正しいものを一つ選択せよ。

- 1 先週の会合に学生たちはすべからく欠席した。
- 2 上司はビジネスチャンス<sup>を</sup>常に逃さない目鼻が利く人だ。
- 3 友人はしかめつらしい表情で私を部屋まで案内した。
- 4 彼は、いつもワインについて蘊蓄<sup>うんちく</sup>を傾けて語ってくれる。
- 5 彼女はしばらくの間、熱にうなされていた。

問題 17 次の記述に当てはまる人物の名前として正しいものを一つ選択せよ。

彼は、明治 21 年生まれの小説家・劇作家である。芥川龍之介らと『新思潮』を起し、『父帰る』などの戯曲や『藤十郎の恋』などの小説を発表して作家として認められた。雑誌『文藝春秋』創刊以後の出版事業の成功、劇作家協会、小説家協会設立による文筆家の福利厚生事業、芥川賞、直木賞の設定による新人育成などで「文壇の大御所」と呼ばれる実力を示した。

- 1 宮沢賢治
- 2 武者小路実篤
- 3 夏目漱石
- 4 志賀直哉
- 5 菊池寛

以 上